

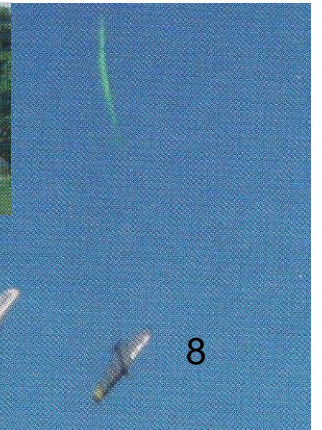
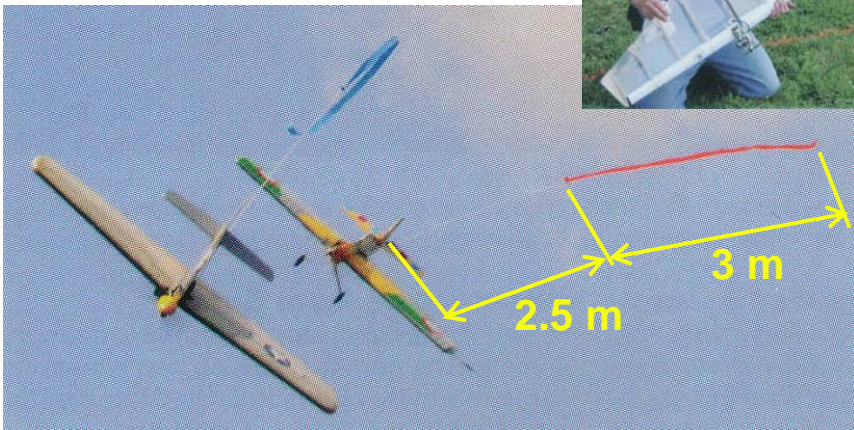
F2C: チームレーシング



3 機を同時飛行させて、ピット
ストップ(給油)を行いながら
規定時間内の周回数を競う

F2D: コンバット

2 機を同時に高速飛行させて、
相手機の機尾に取り付けた
ストリーマを切り合う空中戦



その他のカテゴリー

近年の電気モーターとバッテリーの著しい発達に伴い、機体も進化

- ① 動力の始動がスイッチの **オン・オフ** の操作だけで極めて容易
- ② 飛行時間はタイマー操作
- ③ 環境配慮（排気ガスなし・低騒音）
- ④ プロペラの回転方向を選択
- ⑤ プロペラトルクの影響（ジャイロ効果）
- ⑥ 加速度センサーの適用による回転数制御



電動モーター装備のプロフィル(板胴)型式スタント機



レシプロエンジン×2基 + 電動モーター×4基 装備のセミスケールスタント機

2.3 競技規定等

安全に飛行・競技するために、

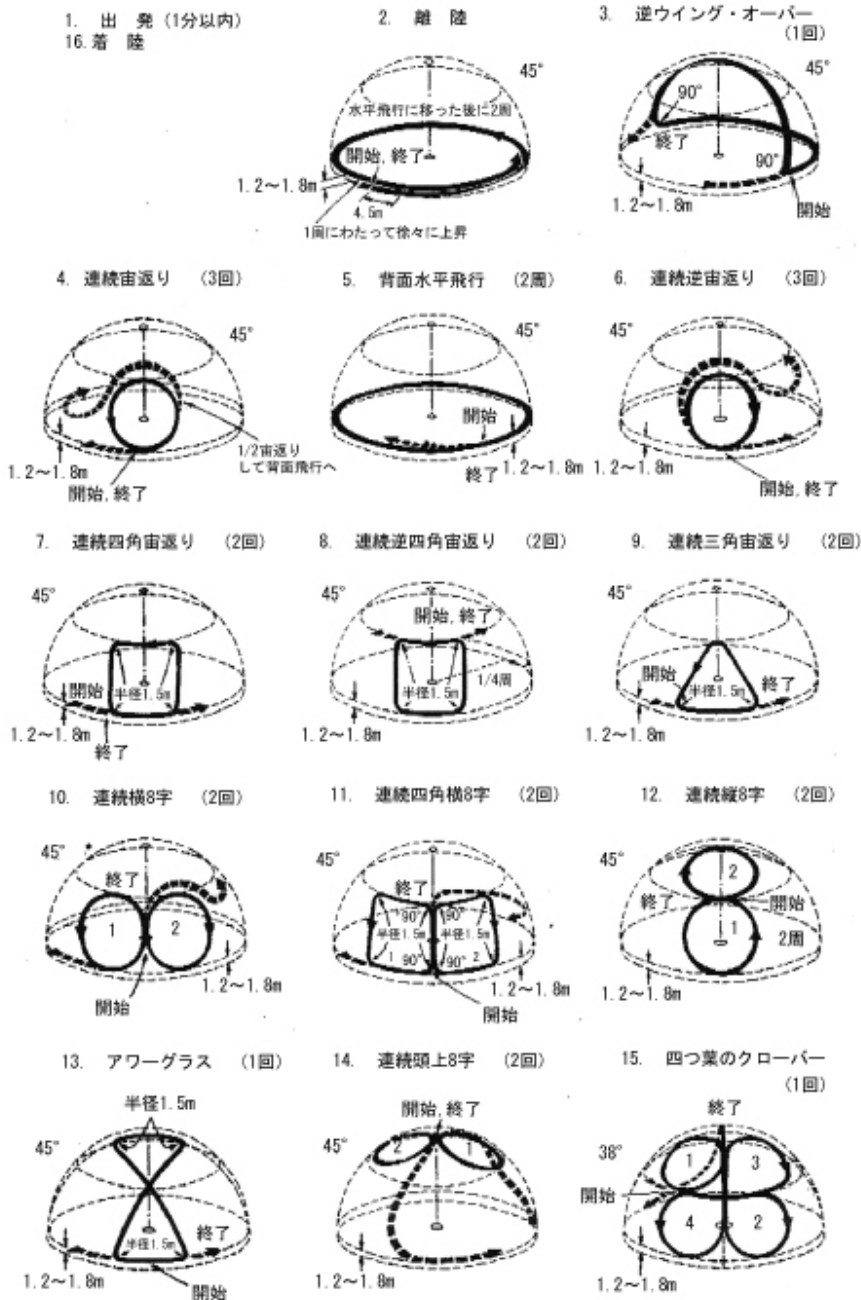
種目毎に 主尾翼の合計面積 や 最大排気量、ラインの長さ 等が規定

- 例えばスピード競技では、速度が速すぎてパイロットが機体についていけずに **制御不能に陥ると極めて危険**
- **無制限** に速度を競うと、30 年以上も過去に **300 km/h 超**
- **ライン径を太くして 速度を抑制** する対策も 効果的



F2B 競技(演技:16種)の 機体制限や飛行規定の概要

- ① 最大飛行重量: 3.5 kg
- ② 最大全長: 2 m ③ 最大全幅: 2 m
- ④ ピストン式エンジンの総容積上限: 15 cc
- ⑤ ライン長(コントロールハンドル中心から機体中心まで): 15.0 m 以上 21.5 m 以下
- ⑥ 演技時間: 7 分以内
- ⑦ ライン試験: 飛行の 30 分前以内に、当該機の燃料を含まない重量の 10 倍の負荷をハンドルとライン、機体全体に作用
- ⑧ 有効なサイレンサーを装備



2.4 “Uコン”の歴史

- ◆ 1940 年初頭に合衆国で発展
- ◆ 1940 年 9 月に、オレゴン州のネヴィルス・E・ウオーカーが“Uコン”の原型を発明
同年 12 月末に特許を出願
- ◆ カリフォルニア州を中心に急速に普及発達
機体のキットも販売
- ◆ 翌春には競技会が開催され、2 機同時飛行 や 第 3 ライン を用いてエンジンの出力を制御するまでに至った
- ◆ 我が国には 早くも 1941 年に伝わった
- ◆ 第 2 次世界大戦後、米国の駐留軍が最新技術を伝承・展開
- ◆ 1947 年(昭和 22 年)に東京の宮城前広場で第 1 回日米親善模型飛行機大会開催
- ◆ 戦後の混乱から立ち直った 1948 ~ 49 年頃に全国に幅広く普及
駐留軍基地のある立川、横田基地などに 専用サークル が作られていたことから当時の盛況振りが伺える



“Uコン”の発明なしには、短期間で世界中にこれほど多くの
模型航空機人口を育成するに至らなかったとすら言われている¹²